



心ゆたかに

三芳町立藤久保中学校 学校だより 第8号

学校教育目標 「自ら考え進んで行動する生徒」

令和7年12月15日（月）発行 文責 菅谷 和孝



(\leftarrow HP)

「強さの秘訣」

校長 菅谷和孝

東京デフリンピックが2025年11月15日～26日までの12日間、70～80の国と地域が参加し、21競技で開催されました。このデフリンピックとは、耳の聞こえないアスリートのためのオリンピックです。デフ(Deaf)とは、英語で「耳が聞こえない」という意味で、デフリンピックは国際的な「きこえない・きこえにくい人のためのオリンピック」ということで、オリンピックと同じように4年に1度、夏季大会と冬季大会がそれぞれ開かれ、東京で開催される夏季デフリンピック競技大会は、日本では初めての開催となります。また、1924年にパリで第1回デフリンピックが開催されてから、100周年の記念となった大会でした。

三芳町でも姉妹都市であるマレーシア(マレーシア・デフスポーツ協会)と協定を結び、全国で初、参加国のホストタウンとなりました。マレーシアが参加した種目はバドミントン・陸上・ボウリング・空手の4種目で、多くのメダルを獲得しました。本校にも11月 13 日にボウリング選手団が来校し、競技の説明や一緒にボウリング体験を行いました。その放送はテレビ埼玉でも紹介され、皆さんの中でもご覧いただいた方もいらっしゃるかと思います。

また、中学校では 11 月 24 日に町内3校の希望者を募り、空手会場へマレーシア選手団の応援団を結成し試合を観戦しました。応援していた生徒のなかでは「マレーシア選手と日本選手の決勝になつたらどっちを応援したらいいんだろう」と葛藤していた生徒もいました。



デフの日本空手選手と言えば今回も出場した小倉 涼選手について少しお話をさせていただきます。小倉選手は埼玉県坂戸市出身で、現在は埼玉県立特別支援学校「坂戸ろう学園」で教員をされておられます。今回のデフリンピックでも個人形で銅メダル、翌日の-61Kg 級では見事に金メダルを獲得いたしました。そのような小倉選手の強さの秘訣について、監督や関係者がよく挙げるのは、彼女の「具体的な行動力」と「質問魔」な姿勢だそうです。

「質問魔」

ルールが変更されたり、新しい戦術に出会ったりしたとき、彼女は「分からぬ」と終わらせません。「はい！はい！」と積極的に手を挙げ、監督やコーチに徹底的に質問し、疑問を解消します。不安要素をなくすことで、プレッシャーの原因となる「分からぬ」を減らしているようです。

「具体的な目標」に集中する

彼女は「教え子たちの前で格好悪い試合は見せられない」という強い責任感を持っています。このプレッシャーを、漠然とした不安ではなく、「最高の演武をする」という具体的な目標へのエネルギーに変えているようです。

プレッシャーが生まれるということは、真剣に物事に取り組んでいる証拠です。小倉選手は、そのエネルギーを「不安」ではなく、「どうすれば解決できるか」「どうすればもっと上手くいくか」という具体的な行動と質問に向けていました。

生徒たちも学校生活の中で、テストや発表会、部活動の試合など、様々なプレッシャーを感じことがあります。大切なのは、「緊張するな」と考えることではなく、そのプレッシャーを「真剣に取り組んでいる証拠」と受け止め、小倉選手のように「具体的に何をすれば解決できるか？」を考え、行動に移すことが大切だと思います。積極的に質問する勇気、そして目標に向かって努力する姿勢が、きっと「プレッシャー」を「成長へのエネルギー」に変えてくれます。

これから先、思い通りにならないことがあります。むしろ思い通りにならないことの方が多いかもしれません。しかし、自分の決断を実行に移すのは周囲ではなく自分自身なので、自分の可能性を信じて、目の前の課題に挑戦していくってほしいと思います。

年が明け、令和8年になるといよいよ3年生も受検(験)が直前となります。恐らく緊張する人が多いかもしれません、小倉選手のようにプレッシャーを自分の力に変えられるよう、残りの時間を大切に過ごしてほしいと思います。1・2年生も1月には宿泊学習が待っておりますので、この学習を通してしか学べないものを求め、「More over(さらにその上)」という想いで努力してみてほしいと思います。

保護者の皆様、地域の皆様、令和7年も本校の教育活動に関しまして多大なるご理解とご支援賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。来年も引き続き、どうぞよろしくお願ひいたします。皆様にとって来年が良き年になりますことを祈念しております。